

後発開発途上国から来日中の留学生への支援についての考察 —留学生への質問票・インタビュー調査の分析から—

森 田 桂 花

Consideration of Support for Students from Least Developed Countries Studying in Japan —An Analysis of the Questionnaire and Interviews Conducted with International Students—

Keika MORITA

要旨

本稿では、日本で学ぶ途上国の留学生、特に後発開発途上国（Least Developed Countries、以下 LDCs）から来日中の留学生を対象に質問票・インタビュー調査を実施した。その結果や彼らの置かれた現状の分析から、彼らのおよそ 6 割が公的奨学金を得て来日しており（2015 年）、その多くが英語のみで修学できるコースに在籍し、日本語の問題に直面しているという課題が判明した。さらに日本語能力の低さが要因となり渡日後奨学金やアルバイト探しに苦勞するなど二次的な課題を生じさせていた。このように日本語学校を経由して大学入学する従来型の留学生には見られない新しいタイプの課題が見つかったが、従来型の留学生支援の枠組がこの課題解決に一定の有効性を示していることが示唆された。

キーワード：後発開発途上国、留学生支援、日本語能力、奨学金

Abstract

In this paper, a questionnaire and interview survey were conducted targeting international students from developing countries studying in Japan, particularly those from Least Developed Countries (LDCs). As a result of the analysis of the survey data and the examination of their current situations, it was revealed that approximately 60% of them came to Japan with public scholarships (as of 2015). Many of LDCs students are enrolled in courses where they can study exclusively in English, the situation leads to the challenge related to the Japanese language. Additionally, the lower proficiency in Japanese has been identified as a contributing factor, giving rise to secondary challenges such as difficulties in scholarship application in Japan and part-time job hunting. While new challenges were identified, distinct from those encountered by students entering universities through Japanese language schools, this paper suggests that the conventional framework of international student support demonstrates some effectiveness in addressing these issues.

Key words : Least Developing Countries, Support for International Students, Japanese Language Proficiency, Scholarships

1. はじめに

本稿では、後発開発途上国(Least Developed Countries、以下LDCs) から来日中の留学生に焦点を絞り分析・考察を行う。なぜなら、彼らは途上国の留学生の中でも特に日本との経済格差が大きい国から来ており、かつ日本に在住する同胞が少ないため、相互扶助が難しい状況に置かれていると懸念されるためである。

彼ら特有の課題が存在するのか現状を調査し、課題が確認された場合、その解決策を考察・検討する。

1.1. 概念整理

本稿で繰り返し使用する「後発開発途上国 (LDCs)」 「留学生」という用語の概念整理を行う。

1：後発開発途上国 (LDCs)

LDCsとは「国連開発計画委員会が認定した基準に基づき、国連経済社会理事会の審議を経て、国連総会の決議により認定された特に開発の遅れた国々」で、国連の定める基準（3年ごとに見直される）を満たした国がLDCsと認定される。ただし、当該国の同意が前提となる[1]。

2014年時点でのLDCsは48カ国である。国名は後に示すTable 1.をご参照いただきたい。

2：留学生

広義の留学生には日本語学校で学ぶ外国人なども含むが、本稿における「留学生」は「大学で学ぶ留学生のうち『留学』の在留資格を持つ者」とし、日本学生支援機構（以下JASSO）が公開している数値を採用する。

1.2. 先行研究（2014年、執筆当時）

「後発開発途上国」ではなく「開発途上国」から来日中の留学生に範囲を広げて先行研究を探すと、第一に挙げられるのは、佐藤（2010）による東南アジアからの留学生を対象とした調査を基にした留学生政策の評価・分析である[2]。その他に村田・渋谷（1991）による開発途上国から来日した外国人教員を対象とした教員研修制度に関する研究や、大西（2005）による開発途上国からの留学生を対象とした貸与型奨学金の現状と課題に関する研究などが存在する[3] [4]。

また、「後発開発途上国からの留学生」ではなく「留学生」に範囲を広げて先行研究を探すと、留学生個人が抱える問題に関する個別大学での事例研究が多数蓄積さ

Table 1. 大学院に在籍しているLDCs留学生、および公的奨学金を受給しているLDCs留学生数（2014年）

JASSO提供のデータに基づき筆者作成

注：「公的奨学金」内訳は、国費・学習奨励費・政府派遣・JDS・その他日本機関・国際機関・交流協定による奨学金

	国名	総数	うち 大学院	公的 奨学金	割合		国名	総数	うち 大学院	公的 奨学金	割合
1	ネパール	1,386	298	126	9.1%	23	エリトリア	10	10	7	70.0%
2	バングラデシュ	753	656	429	57.0%	25	ハイチ	9	6	4	44.4%
3	ミャンマー連邦共和国	647	311	224	34.6%	26	ブルキナファソ	8	8	8	100.0%
4	カンボジア	275	206	186	67.6%	27	マリ	7	6	4	57.1%
5	アフガニスタン	211	196	184	87.2%	27	シエラレオネ	7	7	7	100.0%
6	ラオス	163	126	116	71.2%	29	リベリア	4	4	3	75.0%
7	ウガンダ	64	34	25	39.1%	29	モーリタニア	4	4	4	100.0%
8	エチオピア	50	43	36	72.0%	31	南スーダン共和国	3	3	3	100.0%
9	タンザニア	48	39	40	83.3%	31	アンゴラ	3	3	3	100.0%
10	セネガル	34	14	12	35.3%	33	レソト	2	2	2	100.0%
11	スーダン	30	29	20	66.7%	33	トーゴ	2	2	1	50.0%
12	コンゴ民主共和国	21	18	13	61.9%	33	ソマリア	2	0	0	0.0%
13	イエメン	20	16	17	85.0%	33	ジブチ	2	1	2	100.0%
14	マダガスカル	19	17	13	68.4%	37	中央アフリカ	1	1	0	0.0%
15	マラウイ	18	18	17	94.4%	37	ブルンジ	1	0	0	0.0%
16	ブータン	17	14	13	76.5%	37	ツバル	1	0	0	0.0%
16	ザンビア	17	14	11	64.7%	37	コモロ	1	1	0	0.0%
18	東ティモール	16	15	16	100.0%	37	キリバス	1	1	1	100.0%
18	ルワンダ	16	16	11	68.8%	42	ガンビア・ ギニアビサウ・ サントメプリンシペ・ 赤道ギニア・チャド・ ニジェール・バヌアツ	0	0	0	0
18	モザンビーク	16	13	12	75.0%						
21	ベナン	13	6	8	61.5%						
22	ソロモン諸島	11	11	10	90.9%						
23	ギニア	10	10	8	80.0%						
							合計	3,923	2,179	1,596	

れている。例えば、廣瀬ら（2004）による研究では3つの問題の因子が示されている。すなわち奨学金やアルバイトといった経済的因子、学習・研究等で問題を抱えた際の支援が不十分であるといった制度的因子、人間関係に関する社会的因子である。これらの諸因子には、留学生の「日本語能力」が影響していると述べられている [5]。

また、杉村（2008）は留学生移動が大衆化・市場化されていると指摘しており、横田（2007）は留学生交流の将来を予測している [7] [8]。

しかし、これらの知見は主流を占める中国・韓国人留学生の動向の影響を受けており、現時点では受入数が少なく、かつ日本語能力の低い学生が多数を占めるLDCsのような国々からの留学生の実態をどれだけ反映できているかは定かでない。そこで本稿では多様化する留学生像を示す基礎的考察として、これまで必ずしも明確にされてこなかったLDCs留学生の現状と課題を明らかにする。

2. 日本におけるLDCs留学生受入の状況

質問票調査の結果分析に先立ち、日本におけるLDCs留学生の状況の特徴を4つ挙げる。

1：総数が少ない

2014年時点において、日本の大学に在籍するLDCs留学生は3,923人で、日本の大学に在籍する留学生総数(105,844人)の3.7%にしか満たない。また、その大半は、ネパール・バングラデシュ・ミャンマーに偏り、その3

カ国を除くLDCs留学生の数は1,137人と大変少なく、留学生総数のわずか1.1%に過ぎない (Table 1.) [9]。

2：大学院に偏っている

LDCs留学生の総数である3,923人の内訳は、大学院2,179人、学部1,744人である。大学院と学部の比率は1.23：1だが、学部生の割合が突出して多いネパールを除く47カ国で見ると、大学院1,881人：学部656人となる。この場合の大学院：学部比率は2.88：1で、この大学院への偏りの背景には次項目3の影響がある。

3：公的奨学金受給者が多い

2の背景には、LDCs留学生のうち国費留学生・外務省人材育成奨学計画（以下JDS）といった公的奨学金（主に大学院生対象）受給者の割合は40.7%にも上るといふ要因がある (Table 1.)。近年私費留学生が急増したネパールを除くLDCs47カ国では、57.9%が公的奨学金受給者にあたる (JASSO 2015)。これは、JASSOの定義する留学生の9割強が私費留学生であるのと比べて高い割合である。さらに、Table 1.で網掛けにしている東ティモール・ブルキナファソ・シエラレオネ・南スーダン共和国・アンゴラ・レソト・ジブチ・キリバスの8カ国は全員が公的奨学金受給者であり、これらの国々からの留学生は公的奨学金の増減の影響を直接的に受ける。

また、これらの公的奨学金は、英語で修士号が得られるJDSなどの英語だけで入学・卒業（修了）が可能なコース（以下英語コース）に付随するものが多い。

4：受入が一部の大学に偏っている

2014年時点での留学生総受入数トップ30の大学のう

Table 2. 留学生受入れ上位30校におけるLDCs留学生在籍数（2014年5月1日現在）

森田（2016）「後発開発途上国からの留学生誘致における現状と課題」から転載（JASSO「平成26年度外国人留学生在籍状況調査結果」、各大学への聞き取りにより筆者作成）

大学名	JASSOが公開する留学生数	各大学が公開する留学生数		
		留学生数	LDCs留学生数	日本全体のLDCs留学生の何%か
早稲田大学	4,306	4,766	67	4.3%
日本経済大学	3,035	—	—	—
東京大学	2,798	2,873	107	6.9%
立命館アジア太平洋大学	2,379	2,500	132	8.5%
大阪大学	2,012	2,012	58	3.7%
九州大学	1,972	1,972	97	6.2%
筑波大学	1,889	1,889	83	5.3%
京都大学	1,725	1,732	63	4.1%
名古屋大学	1,668	1,668	92	5.9%
東北大学	1,532	1,532	42	2.7%
北海道大学	1,456	1,456	89	5.7%
立命館大学	1,440	1,253	32	2.1%
慶應義塾大学	1,303	1,418	14	0.9%
同志社大学	1,273	1,370	23	1.5%
東京工業大学	1,224	1,224	32	2.1%

大学名	JASSOが公開する留学生数	各大学が公開する留学生数		
		留学生数	LDCs留学生数	日本全体のLDCs留学生の何%か
日本大学	1,188	1,188	6	0.4%
大阪産業大学	1,155	1,133	16	1.0%
神戸大学	1,096	1,096	42	2.7%
明治大学	1,095	1,570	27	1.7%
広島大学	1,059	1,060	88	5.7%
拓殖大学	1,031	953	13	0.8%
上智大学	914	1,167	10	0.6%
城西国際大学	907	911	7	0.5%
明海大学	870	863	13	0.8%
横浜国立大学	843	843	31	2.0%
千葉大学	819	819	26	1.7%
中央大学	817	817	6	0.4%
関西大学	738	843	1	0.1%
一橋大学	731	727	9	0.6%
東京国際大学	695	—	—	—
合計	43,970	27,665	1,159	

ち、国別の留学生受入数を公表している大学は28校ある。LDCs留学生の総数3,923人のうち、1,159人(29.5%)がTable 2.の28大学に集中している(JASSO)。これも大学院偏重の背景にあり、英語コースを提供している大学が選抜性の高い大学に偏っていることが影響している。

3. 分析方法

3.1. 質問調査概要

仮説を立て、それに基づきLDCs留学生特有の問題に焦点を当てた質問票を設計した。問題を解明するために事前に選択肢を設けない自由記述形式の質問票を用意し、さらに質問票調査を補完する形で半構造化されたインタビュー調査(LDCs留学生10人、LDCs駐日大使館関係者11人、大学教員7人)による補足分析を行った。質問票は、日本語と英語の両言語で作成した。

質問票は、留学生全体に共通する問題なのか、もしくはLDCs留学生特有の問題なのかを特定するために、コントロールグループとしてJASSOの「私費外国人留学生生活実態調査」(以下JASSO調査)の結果と比較することを考慮して設計された。

対象者：日本で学ぶLDCs留学生(学部生・大学院生)

調査時期：2011年11月1日～12月22日

調査内容：デモグラフィック要因(出身国・年齢・性別・滞在年数・学籍)および日本での留学生生活に関する質問。自由記述の形式をとる。

回収率：79.3%(回収数：31通/質問票送付数：39通)

2011年度のJASSO調査の回答者6,004人のうちLDCs留学生はわずかに281人(4.7%)である。質問票の内容

(JASSO調査との比較)をTable 3.に示し、以下に質問項目を記載する。

- (1) どの国に留学したかったですか。
- (2) 何故日本に留学できたのですか。何故日本に留学したのですか。
- (3) 日本に留学して良かったと思いますか。また、それは何故ですか。
- (4) 日本で学生生活を送る上で困っていることは何ですか。
- (5) 祖国との経済格差・文化や風習の違いで辛い思いはしましたか。
- (6) (4) (5) をどのように解決しましたか。友人、寮生活など、それに役立ったものは何でしたか。
- (7) 奨学金は貰っていますか。その場合、奨学金名と月額支給額を教えてください。
- (8) 日本語能力はどのくらいか(JLPT 級 点、来日時と現在について)
1：日常会話程度 2：会話はできるが読み書きはできない 3：日本語の講義の内容を理解できる 4：テレビや新聞のニュースの内容が理解できる

3.2. 本調査とJASSO調査の「構成」の相違点

この調査結果がLDCs留学生に特有のものなのか、留学生全般に共通するのかを分析するために、JASSO調査の結果と比較した。

JASSO調査と当調査との主な相違点は2つある。第一に、JASSO調査の質問票は日本語のみで作成されていた(2009年当時)のに対して、当調査では日英両言語で質問票を用意したため、日本語ができない留学生の悩みを拾い上げることができた。第二に、JASSO調査

Table 3. JASSO調査および本調査の質問票比較

今回の調査(#1～#9)	私費外国人留学生生活実態調査(Q1～36)
31通/35通 回収率 88.6%	6,004通/7,000通 回収率85.8%
2011年11月1日～12月22日	2009年10月(隔年実施のため、執筆当時最新のもの)
共通する設問	
出身国(Q1) 留学の目的(#2、Q2) 日本に留学して何年(Q6) 国立・公立・私立区分(Q9) 課程(Q10) 専攻(Q11) 日本に留学して良かったか(#3、Q18) 来日後苦勞したこと(#4、Q19)	
異なる設問	
留学したかった国(#1)	留学の理由(Q3) 留学前に苦勞したこと(Q4) 留学情報の入手方法(Q5) 来日後すぐ入学したか(Q7) 入学前どこにいたのか(Q8) 勉強時間(Q12) 通学時間(Q13) 保証人関係(Q14、15) 来日後日本の印象は良くなったか(Q17) 一ヶ月の収入(Q20) 学習奨励費について(Q21) 一ヶ月の支出(Q22) アルバイトをしているか(Q23) どんなアルバイトか(Q24) 何県に住んでいるのか(Q25) 宿舍(Q26) 一人暮らしか(Q27) 何人暮らしか。誰と住んでいるのか(Q28) 敷金礼金金額(Q29) 宿舍保証人(Q30) 宿舍保証人は誰か(Q31) 病気が(Q32) 健康保険(Q33) 健康保険加入していない理由(Q34) 卒業後の予定(Q35) 就職したい分野(Q36)
経済格差のため困ったこと(#5)	
解決方法(#6)	
奨学金名(#7)	
日本の生活になじむのに効果的だったこと(#8)	
日本語能力(#9)	

Table 4. フェイスシート

	性別	課程	滞在年月	奨学金の種類	来日前 日本語能力	来日後 日本語能力	国籍	大学名	文理
1	男性	博士	2年2か月	日本学術振興会	全くなし	日常会話	バングラデシュ	国立A大学	理系
2	男性	修士	1年2か月	受給している	全くなし	日常会話	バングラデシュ	国立A大学	理系
3	男性	博士	2年5か月	国費奨学金	少々	日常会話	ネパール	国立A大学	理系
4	男性	修士	2年	国費奨学金	全くなし	日常会話	ネパール	国立A大学	理系
5	男性	修士	7か月	無回答	全くなし	単語少々	ネパール	国立A大学	理系
6	男性	博士	1か月	東京大学奨学金	全くなし	全くなし	ネパール	国立A大学	理系
7	男性	修士	2年	アジア開発銀行	ひらがな	日常会話	ネパール	国立A大学	理系
8	男性	修士	1年	アジア開発銀行	全くなし	単語少々	ネパール	国立A大学	理系
9	男性	博士	2年9か月	国費奨学金	全くなし	日常会話	ネパール	国立A大学	理系
10	男性	博士	3年	国費奨学金	全くなし	日常会話	ネパール	国立A大学	理系
11	男性	修士	1年	国費奨学金	良くない	良くない	カンボジア	国立A大学	文系
12	女性	修士	2か月	国費奨学金	日常会話	会話のみ	カンボジア	国立A大学	理系
13	男性	博士	1年	私費	少々	上達した	ミャンマー	国立A大学	理系
14	男性	修士	7か月	JICA 長期研修生	JLPT3	JLPT3	マラウイ	国立A大学	理系
15	男性	修士	2年	JICA 長期研修生	全くなし	単語少々	エチオピア	国立A大学	理系
16	男性	修士	2年	JICA 長期研修生	日常会話	会話のみ	シエラレオネ	私立A大学	文系
17	男性	修士	無回答	国費奨学金	不自由	まだ	バングラデシュ	国立B大学	文系
18	男性	修士	2か月	世界税関機構	全くなし	日常会話	バングラデシュ	国立B大学	文系
19	男性	修士	無回答	JICA 長期研修生	全くなし	日常会話	アフガニスタン	国立B大学	文系
20	女性	修士	無回答	国費奨学金 (YLP)	全くなし	初心者	ミャンマー	国立B大学	文系
21	男性	修士	無回答	国費奨学金 (YLP)	全くなし	初心者	カンボジア	国立B大学	文系
22	男性	修士	1年	世界銀行	全くなし	挨拶のみ	タンザニア	国立B大学	文系
23	女性	修士	無回答	国費奨学金	全くなし	全くなし	エチオピア	国立B大学	文系
24	男性	修士	6年	65%学費減免	全くなし	日常会話	バングラデシュ	私立B大学	文系
25	男性	修士	4年5か月	奨学金	全くなし	JLPT3	リベリア	私立B大学	文系
26	男性	修士	2年	65%学費減免、大分県	全くなし	JLPT2	ネパール	私立B大学	文系
27	男性	学士	4年5か月	無回答	全くなし	JLPT3	ベナン	私立B大学	文系
28	男性	学士	10年7か月	100%学費減免	全くなし	JLPT1	マリ	私立B大学	文系
29	男性	修士	無回答	JDS (外務省)	無回答	JLPT3	バングラデシュ	私立B大学	文系
30	男性	博士	無回答	国費奨学金	日常会話	JLPT3	マラウイ	国立C大学	理系
31	男性	修士	2年	JICA 長期研修生	全くなし	新聞を読める	ネパール	私立C大学	文系

は無作為に選ばれた私費留学生を対象としていたが、当調査は大学関係者に質問票を提供したり、Snowball samplingの手法を用いるなどして質問票の回収を行ったため、教職員や友人と良好な関係を築いている留学生の問題に偏ってしまった。対象者のフェイスシートをTable 4.に示す。

4. 質問票調査の結果

(1) どの国に留学したかったですか。(Table 5.)

留学希望先に日本を加えていたのは、54.8%だった。ただし日本だけを留学先として希望していたのはわずか12.3%で、アメリカ61.3%、イギリス32.2%、オーストラリア22.6%、カナダ12.9%、欧州6.4%、南アフリカ・オランダ3.2%であった(複数回答可)。

(2) 何故日本に留学できたのですか。何故日本に留学したのですか。(Table 5.)

一番多かった回答は「奨学金を受給したため」(58.0%)だった。次に多かったのは「名門大学だから」(16.1%)で、回答者は全員が東京大学の学生だった。三番目が「先進国だから」(6.5%、回答者は全員政策研究大学院大学以下GRIPSの学生)と「友人・先輩が日本留学をしていたから」(6.5%)であった。

彼らの回答傾向を掴むために奨学金ごとのクラスターに分けた。国際協力機構(以下JICA)の奨学金受給者の85.7%が留学希望先に日本を含んでいる一方で、国費留学生のうち留学希望国に日本を含んでいたのはわずか18.2%だった。この差がモチベーションの差に繋がり、後続する設問への回答にも影響を与えていた。

(3) 日本に留学して良かったと思いますか。また、それは何故ですか。(Table 6.と7.)

32.3%が「設備」を挙げていた。この回答は、学問の分野(文系・理系)や大学の特性に関わらず、4つの異なる大学に在籍する留学生から幅広く選ばれたため、日本の大学全般に当てはまる可能性が高いと考えられる。

また、「実学」が16.0%「制度」が6.5%だった。「ゼミ制度」については、インタビューで東京大学教養学部の日本語教員から「ゼミ制度はLDCs留学生のセーフティネットになっている」との情報も得られた。

その他にもこの日本的な教育制度について「研究に根

ざした日本の大学は素晴らしい。学生は検討したり、分析したり、それを論文にしたりといった作業を実証的に行う。教科書を基に技能や知識を教え込むことよりも意味がある(抄訳:筆者。以下同)」「欧州やアメリカの教育方法と日本のそれは異なる。もちろん私の祖国(エチオピア)とも異なる。日本では、研究に根ざした教育を行っており、実際に起こりうる問題や事例研究が中心となる。他国では理論が中心になると対照的である。私は日本の教育方法が良いものだと感じているし、理論中心の研究よりずっと好きだ」との回答もあった。

ゼミの効果については小川(2010)の留学生を対象と

Table 5. 「どの国に留学したかったですか」 受給している奨学金別分類 (原文ママ)

	国籍	留学希望先	何故日本に留学できたのですか。何故日本に留学したのですか。	
MEXT	3	ネパール	US	MEXT Scholarship, field of study
	4	ネパール	Japan, Australia, Canada	better research environment, interest field(Earthquake)
	9	ネパール	US, Australia, Japan	top Master, MEXT Scholarship
	10	ネパール	UK	MEXT Scholarship
	11	カンボジア	Japan, US, New Zealand	competitive scholarship, academic, Japanese products, second world economic power, finest university, new and holistic
	12	カンボジア	UK, Japan	MEXT Scholarship
	17	バングラデシュ	US, UK, Australia, Japan	developed
	20	ミャンマー	US, UK	interest field (Policy Science), nominated by ministry
	21	カンボジア	US, UK, Japan	scholarship, hospitality
	23	エチオピア	US, UK, Canada, Australia	scholarship, one year master course
	30	マラウイ	Japan, US, UK	Friend in Yokohama Kokudai introduced me. See japanese professors at conferences, MEXT scholarship
JICA	14	マラウイ	US	JICA scholarship for government employee
	15	エチオピア	US, Japan, UK, Australia	JICA scholarship for government employee
	16	シエラレオネ	US	scholarship, top standsrd of post graduate course
	19	アフガニスタン	US	Japan is not explored, second best economy status, management style
	22	タンザニア	US	high quality of education
	29	バングラデシュ	US, UK, Canada, Japan	無回答
	31	ネパール	UK, Sweden, Canada	JICA scholarship for government employee
ADB	7	ネパール	US, Japan, UK	top rank in Civil Engeneering
	8	ネパール	US, Europe, Japan	top ranking university, scholarship
JSPS	1	バングラデシュ	Japan, US	reptation, top university,
私立B大学 奨学金	24	バングラデシュ	Any	students from worldwide, miniature of the world, unique opportunity, multicultural, multilingual, scholarship
	26	ネパール	日本	scholarchip by government and university, curriculum
	27	ベナン	日本	economic situation, 日本の技術
	28	マリ	US, Canada, Australia, Japan	戦後の高度成長に興味があったから
その他 奨学金	2	バングラデシュ	Canad	scholarship, fascination for Eastern Asia
	5	ネパール	Japan, US, Canada, Netherlands, Australia	world recognized education
	6	ネパール	US	scholarship, interest matched with the lab, seniors come to Japan for higher education
	18	バングラデシュ	Japan	developed, world ranking university, cooperative, modest, helpful, scholarship
	25	リベリア	Europe, US	scholarship
私費	13	ミャンマー	South Africa, UK, Japan	industrialized, advanced medical and molecular reserch technologies

したインタビュー調査（回答者57人）でも「ゼミは日本の大学院教育の特長」として、①研究領域の幅を広げる、②他人の力を活用、③異なる角度からのコメント、④士気の維持、などの効用が挙げられている[10]。

しかし、松本（2009）の実施したインタビュー調査では、カンボジア人学生（専門：水産、博士号取得、国費留学生、長崎大学）が「ヨーロッパでの経験と比べて研究室で自由がないと感じた。先輩に従わなければならないし、厳しいルールがある。これが日本システムだとわかるまで1～2年かかった」と答えており、日本人的な集団行動に対して違和感がある留学生も存在する[11]。

その他にも日本人の特性に触れている回答として「日本留学は、最新の科学技術を学ぶだけでなく、『他者を尊敬する』という人として一番重要なことを学ばせてくれる。日本、そして日本人は先進国の中でも最も発展しているのに他者への尊敬を忘れない。他の先進国も日本

に習うべきだがそうはなっていない。だからこそ、日本に留学することで人として一番大切なことを私たちは学ぶべき」「日本人は一生懸命働き、研究に打ち込むので、（その姿を見せることで）留学生のやる気を起こさせる」といったものがあった。

この結果をJASSO調査と比較する。当回答においては総じて日本および日本人に対する評価は前向きなものが多かったがJASSO調査においても、回答者の68.4%（4,108人）が「留学後に日本の印象が良くなった」と答えていた。また、「留学して良かった」と回答した数は85.1%（5,112人）だった。

(4) 日本で学生生活を送る上で困っていることは何ですか。(Table 8.)

80.6%が「日本語」を挙げていた。「学内ぐらいいは国際化すべき」「日本人は英語ができてても英語を喋ってく

Table 6. 「日本に留学して良かったと思いますか。またそれは何故ですか」①（原文ママ）

	国籍	日本に留学して良かったと思いますか。またそれは何故ですか。
設備	2	バングラデシュ resources, facilities, professor
	4	ネパール reserch facility
	7	ネパール well equipped lab, good environment for study and reserch
	10	ネパール supporting facilities
	11	カンボジア well equipped materials, plenty of opportunities to see famous academics
	18	バングラデシュ equipped with most modern technology, facilities to study
	19	アフガニスタン GRIPS second to none, facilities, students office extremely courteous and helpful, teachers very kind and persuasive
	26	ネパール equipment, infrastructure, abundance of materials in library, media tools for reserch
	29	バングラデシュ well equiped Japanese natural beauty and food, Japanese people are polite, gentle, helpful, kind and never interfere about other peoples' work
	30	マラウイ Phd system involves intelligent system, world class reserchers, use cutting edge tools, professional network, enjoy Japanese culture food customs
実学	3	ネパール hands-on, reserch-oriented
	9	ネパール highly reserch oriented
	14	マラウイ acedemic experience, histry of education
	15	エチオピア way of teaching is different from US and Europe, reserch based, pratical, case study, apposite western theoretical way, japanese way is better and I like it
	31	ネパール reserch based study in Japan is best
制度	6	ネパール social environment, lab system
	8	ネパール lab system
	12	カンボジア education system, environment
その他	1	バングラデシュ modern technology,
	5	ネパール good
	13	ミャンマー reserch opportunity
	16	シエラレオネ conductive for learning, lecture is cordial, students are ready to help in times of need
	20	ミャンマー confortable, library, everything is se to be punctual
	22	タンザニア enormous
	25	リベリア extra carricula activities
28	マリ 良い教育を受け、就職もできた。	

注：17、21、23、24、27は、教育に関する回答無し

れない」など自分の日本語力ではなく、外部にその不満が向かう回答もあった。入学後強制的に日本語学習をするカリキュラムの大学の学生からの不満は出なかった。「日本語能力がないと奨学金を受給できない。なぜなら、申請用紙には日本語しか記載されていないから」という回答もあった。

この結果をJASSO調査と比較する。当回答は、JASSO調査の結果と一致しなかった。JASSO調査では日本留学で困った点として挙げられた回答（複数回答可）は、1位が「物価が高い」で80.0%（4,802人）、2位が「日本語の習得」で36.2%（2,174人）、3位が「母国との習慣の違い」で28.7%（1,724人）、4位が「宿舎などを探すこと」で25.0%（1,500人）、5位が「学内で日本人学生と交流できない」で24.1%（1,448人）だった。

一方、JASSO調査の3～5位にあたる回答は当アンケート調査では全く出なかった。3位については次の設問で問うているためこの設問では挙がらなかったと想定され、4位の宿舎に関しては国費留学生を優先的に寮に入居させる大学が多いことなどがその背景として考えられるが、5位についてはその背景にあるものが今回の調査結果からは導けないため、さらなる研究が望まれる。

また、「日本語が分からないと、なかなかアルバイトが見つからない」という回答などで語学力の問題が経済的な問題を引き起こすことが示された。インタビューの回答者が「英語の通じる店にしか行かないため日本語を学ぶ必要はない」と述べていたが、経済的に余裕のない学生にとって英語の通じる店（彼はスターバックスコーヒーを具体例として挙げていた）にしか足を運ばない状況は過酷である。次の設問の回答に「安いスーパーマーケットを見つけるまでは大変だった」という記述があるが、日本語ができないため情報が得られず、その結果支出も増えてしまう可能性もある。

山内（2001）の調査では、留学生が抱える不満として①日本の大学生は勉強しない、②口では国際交流と言うが、相互理解を目指そうとしない、③欧米系の学生には接近したが、④仲間には親切であるが、知らない人だと困っていても無視する、が挙げられていた[12]。この結果は、当結果と異なるが、これは対象が留学生全般なのかLDCs留学生なのかによって生じた差異、すなわちLDCs留学生の特徴と呼んで良いのか検討が必要である。

Table 7. 「日本に留学して良かったと思いますか。またそれは何故ですか」②（原文ママ）

	国籍	日本に留学して良かったと思いますか。またそれは何故ですか。
日本人の特質	1	バングラデシュ human quality, "respect for others", advanced country
	3	ネパール polite, cooperative, living atmosphere, Japanese food
	4	ネパール kind, helpful
	5	ネパール cooperative
	7	ネパール very kind
	16	シエラレオネ very friendly, helpful
	17	バングラデシュ cooperative, Japanese people help me at every difficulty
治安	22	タンザニア people are very good, humble, friendly
	7	ネパール no security problem
	12	カンボジア security, comfortable, culture
	24	バングラデシュ peaceful, secured, safe, every body have freedom
発展	26	ネパール safety, convenience, unsocial nature
	7	ネパール developed,
	13	ミャンマー developed, hard working, good driving for foreign students
鉄道	14	マラウイ developed, technology
	18	バングラデシュ rail service amaizing, rice is tasty
その他	20	ミャンマー comfortable, subway, convenient, advanced system
	6	ネパール cultural value, high resource
	8	ネパール systematic, comfortable
	23	エチオピア too simple, organized, highly technolized
	25	リベリア meet friends from other countries, scholarship, part time job, culture,
	27	ベナン 就職、夢なしごと、新しく経験したこと
28	マリ 優しくて真面目、何事も成果が出るためコツコツ取り組み日本人を尊敬している。もともと日本が好きだったが、留学する事によってもっと好きになった。	

注：2、9、10、11、15、19、21、29、30、31は生活に関する回答無し

(5) 祖国との経済格差・文化や風習の違いで辛い思いはしましたか。(Table 9.)

1：経済的問題

「物価が高い」と回答した学生の90.5%が東京在住だった。ただし「時間が経ったら問題ではなくなった」「値段に慣れるのに特に最初の数カ月は大変だった」といった回答もあったため異文化に慣れていく上での一過程であると理解することもできる。

また、物価は高いとしながらも前向きな回答もあった。

「物価が高いが、日本人は何にでも一生懸命で、だからこそ経済発展を成し遂げたのだから、どの製品も品質が高く、生活の質も高いので（経済格差は）仕方がない」という回答が、その例として挙げられる。

経済格差の具体例として「日本の物価は祖国のおよそ10倍もする」「東京での1ヶ月の支出額は祖国で家族5人を養う1年分の支出額とほぼ同額である」といった回答があった。「バナナは日本では100円（2,300シリング）。タンザニアではバナナは50～100シリング」と物価が

Table 8. 「日本で学生生活を送る上で困っていることは何ですか」(原文ママ)

	国籍	日本で学生生活を送る上で困っていることは何ですか。	
日本語	1	バングラデシュ language problem, I need someone's help as I can't speak Japanese.	
	2	バングラデシュ communication in English. Japanese are very cold in social life, and their attitude is uncomfortable (especially towards Asian)	
	3	ネパール language problem, at least university should be more international	
	4	ネパール language problem, Japanese people hated to speak in English, resources (journals, manuals, instruction guide, written in Japanese)	
	5	ネパール language is main difficulty, I went to bank, and they said no service in english, they recommend me to bring person who speak English	
	6	ネパール language, especially in travelling time	
	7	ネパール language was a barrier to a lot of information, (because of that) shopping	
	8	ネパール language problem	
	9	ネパール language problem, no socialism, just work work and study study, Japanese are hard worker, but increase the mental stress	
	10	ネパール language, health problem due to language barriers	
	11	カンボジア language and culture, without basic Japanese I can't really now what I am eating or buying, Japanese professors use communist thought to frame their students, too much seniority and professor dependent	
	12	カンボジア language, hard to communicate at post office, city office, hospital, bank	
	13	ミャンマー language barrier is big, most of Japanese can speak English but they hesitate to speak it, with no Japanese proficiency students can't receive scholarship because documents only written in Japanese	
	14	マラウイ language and communication, most people in japan don't speak English	
	15	エチオピア language problem to communicate outside the campus	
	16	シエラレオネ language barrier, cold winter	
	17	バングラデシュ language barrier, Japanese are not interested in speaking other language than Nihongo	
	21	カンボジア communication due to Japanese proficiency	
	22	タンザニア language has been stumbling, people mostly speak Japanese, products in shops are described in Japanese	
	23	エチオピア language, communicate with doctor, things written in Japanese, they can't speak English so bad	
	24	バングラデシュ language barrier, even big city in Tokyo	
	25	リベリア language barrier, (because of that) hard to find job in Japan	
	27	ベナン アルバイト先で日本語を分からずに、日本語でハンバーガーの作り方の説明を受けていた。お金で困っていてバイトを探したのに、バイト先で言葉で困った	
	30	マラウイ language was huge problem, Japanese culture seemed too strange,	
	31	ネパール language, especially in shopping	
	経済的問題	18	バングラデシュ expensive, one year program so schedule is harsh
		19	アフガニスタン food is expensive, language barrier at bank and so on, people is not social, travelling no body talks to to ou and they don't talk with each other, but if you ask someone to help they will do their best to help you, quality is rare
		20	ミャンマー high price, look for cheapest place to buy food cloth, but great challenge and great opportunity
		28	マリ 物価が高い。日本語が分からないと、中々バイトが見つからない。本音と建て前の使い分け。
		29	バングラデシュ part time work, by which I could earn money and travel around Japan. I have passed JLPT N3 and got 100% marks in listening section. So my poor knowledge in Kanji gave me a little trouble.
	26	ネパール Japanese people are unsocial xenophobic, you have to live as an outcast everyday, differentphenomenon compared to other developed nation	

23～46倍も違うことを示したのもあった。

経済的な理由に限定したにも関わらず、宗教の問題を挙げている回答が2件あったため次の項目に併せて記載する。また、同様に経済的な理由に誘導していたにも関わらず日本語の問題を再度指摘している回答もあった。

「祖国より物価が高いのに困っている。だがそれはなんとかできるが言葉の問題は本当に困っている。だから

日本語を学ぶことにした」「講義は英語だし、学内では皆が英語を話している。ただ学外に出ると日本語ができなくて苦労する」「物価は高いが、障害となるのは言語の問題」「日本語の勉強」「日本語は好きだが漢字がどうしても上達しない。日本語能力試験で3級に合格したけど、それはリスニングで満点を取ったから。漢字が読めないで困ることが多々ある」といった回答があった。

Table 9. 「祖国との経済格差・文化や風習の違いで辛い思いはしましたか」(原文ママ)

	国籍	祖国との経済格差・文化や風習の違いで辛い思いはしましたか。	
物 価 が 高 い	1	バングラデシュ daily life expense is much higher than my home country, Somehow I can manage my daily living but what makes me feel uncomfortable most is the language. That's why I am now learning Japanese language	
	2	バングラデシュ expensive living in comparison to the given scholarship.	
	3	ネパール Living cost, especially to move to a new apartment	
	4	ネパール expensive. But later on, everything goes fine	
	5	ネパール expensive than my country	
	6	ネパール expensive goods and service, after receiving scholarship I can manage, it seems to be natural	
	7	ネパール expensive prices, hair cut & transportation are at least 20 times more expensive	
	10	ネパール expensive compared to my country, language is barrier others are all right	
	11	カンボジア expensive, inferior in term of everyday life due to limited budget	
	12	カンボジア every day expense is almost 10 times higher than one in my country	
	13	ミャンマー highest living cost, without scholarship difficult to live in,	
	14	マラウイ busy life of Japanese city life, everything dependent on money, commodities are expensive	
	15	エチオピア expensive	
	18	バングラデシュ expense of goods is ten times to upper	
	19	アフガニスタン expensive, hard to adjust to the prices especially first couple of months, one will spend more than to supposed to until being familiar with place like supermarket	
	20	ミャンマー price, I always compare the prices and it makes me feel depression. Japanese people are trying very hard. As a result, the economy boosts up, the production ability is higher and the standard of living is higher. For my country, we need to get technology to boost productivity and need to enhance our economy.	
	21	カンボジア living cost is too high	
	22	タンザニア price are a bit high, banana in japan 100JPY=2300shillings, in Tanzania banana si 50-100shilling	
	23	エチオピア too expensive, in Tokyo most of the things are not affordable. Except the life expensiveness all things are comfortable and attractive to live in, I really like the subway.	
	25	リベリア scholarship was not enough, I worked hard to pay school fee and pay less attention to my lessons, my GPA dropped 3.00 to 2.77, high rate of Japanese yen, relatives were hard to send me enough money	
	30	マラウイ financial difficulty because I brought family	
	宗 教	24	バングラデシュ culture, like onsen (we are not allowed to take bath together without wearing dress), and other thing is Japanese people never answer anything directly. 食事問題、豚肉入ってる物が多いだから日本食あまり食べられないです。
		29	バングラデシュ food has pork, pig fat, alcohol, cost of life, people are open at hot spring that is problem in my culture
	そ の 他	17	バングラデシュ life style, standard of life, people are very fast and
		26	ネパール Japanese people are unsocial xenophobic, you have to live as an outcast everyday, different phenomenon compared to other developed nation
		28	マリ 日本語の勉強、バイト探し、就職活動は大変だったが、覚悟していたので辛くなかった。
		31	ネパール loneliness, it because of language
	問 題 な い	8	ネパール with scholarship, no economic difficulties
		9	ネパール no difficulty, I have host family and see twice a month, difficulty when we go out, on campus we speak English, lecture given in English
		16	シエラレオネ I do not feel uncomfortable, I am happy, With regards differences in economic power Japan it way ahead of my country as we all know Japan has one of the largest and most developed economies in the world.
27		ベナン 日本の道はすごい技術だと思う。文化については、日本の食べ物、私の国に比べると、自分の国の方は美味しいです。でも、日本の食べ方は国より綺麗です。あとは、「おはようございます」、「お疲れ様です」、「お先に失礼します」等。…言うのはきれいで、人間関係にはすごくいい事だと思う。	

Table 10. 「(日本生活での問題・辛い思いを) どのように解決しましたか」(原文ママ)

	国籍	(4) (5) をどのように解決しましたか。友人、寮生活など、それに役立ったものは何でしたか
友人	1	バングラデシュ having Japanese friend is the most important step for spending fruitful Japanese life. Without a Japanese friend, it is very difficult for a foreigner to survive here unless he is very fluent in Japanese language.
	3	ネパール friends
	4	ネパール kindness, hardworking and discipline of Japanese, effective/punctual transportation system, Japanese cultural shows and Japanese Friends.
	5	ネパール my friends are cooperative, they help me every times I need help
	6	ネパール good friends, smooth study
	7	ネパール friends from all around the world especially from Asia and Europe. Visits to Kyoto, Hiroshima, Toyama and many other places, Hanabi festival, JLC classes, seminars, rare experience of March 11 Earthquake, etc.
	12	カンボジア spending time at school with other foreign or Japanese students
	14	マラウイ international students for spending most of my lonely days
	17	バングラデシュ friends, they help me and we can enjoy party
	18	バングラデシュ friends, TIEC is highly standsrd
	19	アフガニスタン dorm life, make friends in dorm, Japanese style seminar
	20	ミャンマー studying, friends
	23	エチオピア dorm life in TIEC is very interesting
	25	リベリア friends, these opportunities help me interact more and comprehended a lot more about Japanese culture
	27	ベナン 一番助かったのは、日本人友達を出来たからです。同じ部活の人で、アメリカに住んでいて外国の経験ある人物でした。仲良くしながら、日本の文化やお金で困ったときにすぐ答えられる人。
	28	マリ 友達作り、自主活動（ボランティア活動等）
	30	マラウイ international friendship association, home visit and home stay, friends from Africa,
31	ネパール spend most of time in university, want to spend more thime with friends	
言語習得	3	ネパール Fun of learning some degree of Japanese language, familiarity with Japanese culture and lifestyles, etc
	6	ネパール Japanese language
	9	ネパール everything is fine, no problem, need to improve language skill
	23	エチオピア friendship, to share the culture and life style even to learn the language friendship is good.
	26	ネパール acquiring the Japanese language skills and cultural learning.
	27	ベナン 日本語を慣れるのは、日本人女性は好きだからです。いっぱい教えて貰って、今の私の日本語は女性の日本語に成ってしまった。
	28	マリ 日本語の勉強、大学のグローバル環境
	29	バングラデシュ Japanese language training before coming Japan, mixing with common people also made my life enjoyable, home stay, Ikobana, Tea ceremony, rakugo show and regularly watched Japanese TV, Introduction to Japan
寮生活	3	ネパール dorm life
	12	カンボジア spending time at dorm to cook or have party.
	18	バングラデシュ dormlife, TIEC is highly standsrd
	19	アフガニスタン dorm life, make friends in dorm,
	22	タンザニア dorm life in TIEC is very interesting
アルバイト	15	エチオピア part time job
	24	バングラデシュ I did work in convenience store, hotel, factory, English language teacher and also TA (teaching Assistance) in APU. 会社説明会難しかったです。でも自分で全力で頑張って就職を決まりました。来年の4月から働く予定です。
	25	リベリア part time jobs, these opportunities help me interact more and comprehended a lot more about Japanese culture
	28	マリ アルバイト。
観光	12	カンボジア joining the trips with other people
	13	ミャンマー visit famous town like Kyoto or Kamakura or place like Mount Fuji
	16	シエラレオネ sight seeing, visit temples around Niigata
	20	ミャンマー explore Japan
パーティー	11	カンボジア welcome party, Japanese people are kind and friendly, technology and real Japanese characteristic
	13	ミャンマー party with Japanese friends
	17	バングラデシュ friends in the dorm, they help me and we can enjoy party
ゼミ	8	ネパール lab system
	14	マラウイ lab seminar, international students for spending most of my lonely days
	19	アフガニスタン Japanese style seminar
その他	2	バングラデシュ Japanese calmness after the Earthquake
	10	ネパール diciplined life, systematic manners
	21	カンボジア events, in weekend and national holiday
		複数のカテゴリーに含まれる回答はセルをグレーにしている

このように、この問いに対する回答には日本語能力の影響が見て取れる。

JASSO調査では問題の4位となっている住宅だが、回答者の19.4%が在籍する立命館アジア太平洋大学（以下APU）では、留学生は最初の1年間をAPハウスと呼ばれるキャンパス内の寮で過ごすことが原則的に義務付けられているためか、不満が少なかった。JASSO調査で47.3%（2,840人）の私費留学生在が「同居人がいる」と答えているが、APUの留學生に関しても1年目にAPハウスで同居人を見つけて2年目からシェアリングをしている学生が多い。大学での取組が留學生の満足度に影響を及ぼしている可能性がある。

この設問に対する回答には深刻なものも含まれた。「いつもより安い値段のものを探さねばならず気持ちが塞ぐ」「全てがお金次第」「言葉ができないため孤独だ」といった回答などがその例として挙げられる。インタビュー対象者が「奨学金が十分でなかったのでアルバイトを一生懸命頑張った。そのため授業に集中できなくなりGPAが3.00から2.77になった」と回答していた例もある。

アルバイトを頑張りながら良い成績を出している留學生もいるため一概には言えないが、この問題は注視すべきである。特に、この回答者は来日前から日本語が一向に上達せず、そのため「限られた（疲れる）アルバイトしかできない」と回答していた。一方で「アルバイトでお金を稼げただけでなく、国内のあちこちに行くことができた」と回答した留學生もいたため、どこまでが個人の問題で、どこからが大学が組織的に支援すべき問題なのかを見極める必要もある。

2：文化的問題

ムスリムの学生2人が豚肉と酒を口にできないため日本での生活が困難だと回答していた。その他にも「人前で肌を見せてはいけないので温泉に入るとき困る」「温泉に服を着て入ったら友人に笑われた。文化的な理由から着ていると説明したら理解してもらえた」などの回答があった。

その他に「日本人は慎重すぎるので時として時間をもったいなかったり、うっとうしかったりする。一般的に慎重であることは良いことだが度を越すと反対の意味になる」「5ヶ月以上今のアパートに暮らしているが、近所の人のことを知らない。祖国では見知らぬ人であってもすぐに話しかける」「近所の人との付き合いが少ない。家族でさえもプライバシーを気にする。祖国では近所の仲が良く、活発にやり取りする」などの回答があり、これらの回答者は東京在住者だった。LDCs留學生がどの町に住むかにより「辛い思い」の中身は異なり、大学として支援できる限界も異なる。例えばAPUは地方自治体との連携を戦略的に実施していたが、それは別府だか

らできることであり首都圏でそれを実行するのは難しい。

(6) (4) (5) をどのように解決しましたか。友人、寮生活など、それに役立ったものは何でしたか。(Table 10.)

設問が誘導的であった可能性もあるが、一番多かった回答は「友人」で58.0%だった。「日本語ができない外国人にとって、日本人の友人がいないとやっていくのが大変」「文化や生活様式を共有するためにも、日本語の学習のためにも友人が重要」など、友人と日本語を関連させて回答したものもあった。

次に多かった回答は「言語習得」で、言語習得だけでなく文化理解にも努めたいという回答などがあった。三番目は「寮生活」で、前述のAPハウス在住者の他にもJASSOが運営するお台場の東京国際交流館に住む回答者が「寮」を挙げていた。

5. インタビュー調査の内容

前の章で行ったアンケート調査結果の内容を掘り下げるため、インタビュー調査（半構造化インタビュー）による補足を行った。紙面の関係上、2人分だけ掲載する。

1：国立A大学 医学系研究科 博士

ミャンマー国籍 男性（2011年12月8日、1時間、使用言語英語）

1-1 インタビューを行った理由

- 国立A大学LDCs留學生在籍者では珍しい私費留學生であるため。
- 祖国では厚生労働省で研究者をしていたため。

1-2 インタビュー内容

「奨学金が得られなかったのは年齢のため。日本学術振興会の博士向け奨学金は34歳未満が条件だが、自分は39歳。日本で妻が収入を得ているため奨学金受給は難しい。寮についても、家族に収入があると入居できない」「祖国では政変で大学が閉鎖されるなど、他国に比べて学位を取得する年齢は高い。国立A大学には研究生を経て入学した」

「日本留学の目的は祖国の学生により高いレベルでの教育を施すため。国立A大学で博士を取得したら帰国して大学に戻り教鞭をとりたい」

「実験に使用する機材の機能が、祖国で使用していたものと全く異なるレベル。一から学び直している感覚」

「医学系研究科のクラスメイトは皆、英語が話せるし、文献も発表も英語なので問題ないが、機材の使用マニュアルが日本語だけなのでクラスメイトに訳してもらっている。（この点に関しては、日本企業が自社製品の英語マニュアルを作っていないとは考え辛い側面調査が必要）」

2：国立A大学 新領域創成科 修士

カンボジア国籍 男性（2011年12月10日、1時間、
使用言語英語）

2-1 インタビューを行った理由

- ADB（Asia Developing Bank 以下 ADB）奨学金を受給している。日本での就職希望者ではない。

2-2 インタビュー内容

「出願方法は祖国からの直接出願。カンボジアで現地調査を行っていた国立A大学の教授から奨学金を利用して国立A大学に入学する方法があることを教えられた」「将来は帰国して研究者になりたい。帰国は病気の母のため。また、日本語ができないので日本で就職できるとは思わないし、博士課程の出願も行わない」

「帰国後は観光学について更に研究を進めたい。アンコールワットなどの遺跡観光だけでなく、少数民族の村への滞在やカヌー体験のような、持続可能な環境保全と両立した観光ツアーの実用化に向けた研究をしたい」

「奨学金が決め手になり日本に留学した。もしイギリスやアメリカの大学が同額の奨学金を提案したらプログラム内容で判断していたと思う。どの国で学ぶかより何を学べるかに関心がある」

「本当は日本で就職したいが、日本語能力がないので無理とあきらめた」

6. まとめ

6.1. 考察と示唆

今回の回答者の29.0%が開発援助系の奨学金（JICA／ADB）を受給していたことから分かるように、LDCs留学生は国際貢献の観点から奨学金を支給して誘致している留学生のグループの一つと言える。特に私費留学生数が急増しているネパール・バングラデシュ・ミャンマーを除くLDCsにおいてはこれが顕著である。

金子（1995）は「政府による留学生支援」から「市場化の原則の下、各大学が留学生支援を行う」段階に移行していると述べている[13]。しかし、今後経費支弁能力が低い留学生は周辺に追いやられる恐れがあり、LDCs留学生はこれに該当する。

この流れに従い、受入数の少ないLDCs留学生の数がますます減ることを黙認することもできる。しかし、彼らの多くが一部の大学の大学院に偏在していることから、それらの大学が努力を続けることにより日本全体の留学生の多様性を保つこともできる。

また、外務省奨学金で来日した層は日本を第一希望とする割合が85.7%だった一方、文部科学省奨学金で来日した層は18.2%と奨学金の種類により日本留学への熱意の差があり、それが後続する設問に対する姿勢（満足度）に反映されていた。

今回の調査分析を通して「日本語ができない」ために「奨学金を受給できない（申請用紙が日本語で書かれているため）／アルバイトが見つからない／英語に通じる高い店に行く／値段が安い店を見つけられない」といった日本語能力が経済的問題を引き起こす例や、「日本語ができないから孤独だ」といった日本語能力が精神的問題を引き起こす例、「日本語ができないから実験機器の日本語のマニュアルが読めない」といった日本語能力が学習・研究面での問題を引き起こす例などが示された。

この日本語能力の問題と日本語能力が引き起こす問題は、日本語学校を経て大学に入学する、または日本語を勉強して日本留学試験を受けて大学に入学するという従来型のプロセスを経て大学入学を果たした留学生には見られない新しいタイプの問題とも言える。

ただし、前述の通りLDCs留学生は英語コースを設置する一部の大学の大学院に集中して在籍しているため、これらの大学における留学生支援を強化するなどの取組でこの問題を解決できる可能性もある。

当分析により、日本語能力に起因する新しいタイプの留学生の悩みを解決していたのが従来型の留学生支援の枠組（大学寮の提供や友人によるサポートなど）だったという結果が示された。今後、このような既存の枠組を拡充するだけで良いのか、新たな取組が必要であるのかなどについてさらなる調査研究により解明されることが望ましい。

6.2. 本研究の限界および今後の研究課題

今回の回答者の96.8%が奨学金を受給して来日しており、その多くが英語コースに在籍していたため、LDCs留学生特有の問題なのか、あるいは英語コースに在籍する留学生共通の問題なのかを明確に示すことができなかった。今後は英語コースで学ぶ留学生の全体調査を行い、当調査結果と比較分析することでLDCs留学生特有の課題について明らかにすることが望ましい。

また、今回はLDCs留学生48カ国を一つのグループと捉え分析を行ったが、今後奨学金に依存しない私費留学生の送り出し国に変容し、在日留学生数が増加する可能性を秘めている国もあるため、LDCsを細分化して分析する必要もある。森田（2015）は、今後送り出し国に変容する国としてネパールとミャンマーの分析を行っている[14]。これをさらに発展させることが望まれる。

また、森田（2016）はLDCs留学生を対象とした選択肢回答法を用いた質問票調査の分析を行っているが、回答者を増やしてより実証的な研究に繋げることが望ましい。何より、本稿執筆時は英語コースに関する先行研究は少なかつたものの、執筆以降、大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業（グローバル30）の終了・スーパーグローバル大学創成支援事業の開始に伴い英語コー

スに関する研究も増えたため、嶋内（2016）などの研究結果との照合が求められる。[15、16]

謝辞：本原稿の掲載を認めてくださった紀要編集ワーキンググループ主査ハウザー エリック先生、情報企画係の蔭山浩行様はじめ関係者の皆様に心より感謝申し上げます。Table 1.に示した通り、執筆当時、日本在住のLDCs留学生はごくわずかでした。本稿は2014年に完成させたものの、回答者の個人が特定されることを避けるために未発表のまま手元に置いておりました。彼らも卒業・修了し、その多くは祖国に帰国したため今回発表する運びとなりました。

最後に、本稿再構築にあたり多大なる協力をしてくださったアドミッションセンター石田尚さんに心より感謝申し上げます。

参考文献

- [1] 外務省：http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/ohrlls/LDC_teigi.html
- [2] 佐藤由利子：日本の留学生政策の評価—人材育成、友好促進、経済効果の観点から、東信堂（2010）
- [3] 村田翼夫・渋谷英章：日本で学ぶ発展途上国の教員たち、世界の留学、権藤与志夫（編著）東信堂、pp317-338.（1991）
- [4] 大西好宣：開発途上国からの留学生を対象とした貸与型奨学金の現状と課題—国際連合大学私費留学生育英資金貸与事業の調査結果から—、留学生教育、pp.37-45.（2005）
- [5] 廣瀬幸夫・林高行・槌田和美：理工系大学院における留学生施策への提言—2002年度東京工業大学留学生満足度調査アンケートの分析より—、留学生教育、留学生教育学会、pp.95-112（2005）
- [6] 潘建秀：留学生が留学生指導・相談担当者に期待する資質・能力に関する研究、留学生教育、留学生教育学会、pp.85-93（2007）
- [7] 杉村美紀：アジアにおける留学生政策と留学生移動、アジア研究（Vol.54）、アジア政経学会、pp.10-25（2008）
- [8] 横田雅弘：留学生交流の将来予測に関する調査研究（文部科学省先導的の大学改革推進経費による委託研究報告書）一橋大学（2007）
- [9] 日本学生支援機構：<https://www.jasso.go.jp/>
- [10] 小川佳万：「日本留学教授からみた大学院改革の課題」日本教育行政学会第45回大会（2010）
- [11] 松本久美子：帰国留学生に対するフォローアップ—カンボジアにおける訪問調査—、長崎大学留学生センター紀要第17号、pp.17-32（2009）
- [12] 山内タカ子：アジア系留学生との関わりにおける一考察、学生相談研究 Vol.22（2001）
- [13] 金子元久：近未来の大学像、玉川大学出版（1995）
- [14] 森田桂花：後発開発途上国からの留学生受入れに関する考察—多様な国からの留学生受入れ促進に向けて—、留学交流、2015年6月号、日本学生支援機構、pp.47-58（2015）
- [15] 森田桂花：後発開発途上国からの留学生誘致における現状と課題—留学生への質問票・インタビュー調査の分析から—、大学経営政策研究、東京大学大学院教育学研究科大学経営・政策コース、第6号、pp.83-98（2016）
- [16] 嶋内佐絵：東アジアにおける留学生移動のパラダイム転換：大学国際化と「英語プログラム」の日韓比較、東信堂（2016）

（ウェブからの取得日は全て2015年11月20日）